

ノーサイド

北原 巖 男

東ティモールでは、高

齢でみんなの尊敬を集めている人物はカトワス（長老）と呼ばれています。そのようなカトワスの中で、白眉と言えるのが日本人カトワスの皆さん。

コロナ禍対策の規制緩和を待って、3年ぶりに訪問した東ティモールで出会った飯田 進さん76歳もその一人。

飯田さんは、大手重機メーカーの小松製作所で50年間重機の整備・メン

テナンスの専門家として勤務。現在は東ティモールに、公共事業省資材管理局（IGE）所属の整備士等の皆さんに対する建設機械や食堂を見つけたことは不可能です。飯田さんは、事業を実施している自衛隊OBを中心とする特定非営利活動法人（JDRA）の自動車整備技術教官として、若者達の教育・指導に当たっています。

飯田さんの技術者人生の大部分は海外の現場。ある時は人里離れた鉱山で、またある時は炎熱の砂漠の中

いる東ティモールですが、今でも地方に行くときや電気が不自由する所が多くあります。ましてや、ホテルや食堂を見つけたことは不可能です。飯田さんは、そんな環境をもとせず、テント生活を続け、僻地の若者たちに足りない部品や整備器材を工夫・活用して自動車整備・メンテナンスを行う技術をとことん教授し

か、声高に叫ぶことはありません。しかし、彼の存在そのものが、平和構築、生活向上の礎となっているに違いありません。まさに、彼こそ本当の意味でカトワスです。

僕は驚きました。ホイールローター、モーターの負荷はとも大きくですが、本当に頭張っていると思えます。そんな彼らを教えていますと、自分自身、ワクワクして来るんです。飯田さんは穏やかな表情で語っています。名譽も金もいらぬ人間ほど始末に困る者はいない。しかし、そのような人間でなければ大きなことは出来ないといった趣旨のことを述べていた西郷南洲。

カトワスの活躍

飯田さんの整備の高さで世界から賞賛されていますが、その品質の高さは、飯田さんのような強い責任感と情熱を以て現地の人々の中に溶け込んで行っている整備・メンテナンスの専門家によって担保されているのではないのでしょうか。

彼は、世界平和のためとか、民衆生活向上のためと

2002年から東ティモールにて道路や橋の整備等に取り組んでいた自衛隊PKO施設部隊が2004年に撤収する際に、当時の浜田靖一防衛庁副長官が東ティモールに出向かれ、同部隊が使用して来た白い国連塗装の建設機械を東ティモール政府に供与したいという「残地器材」。

あれから20年。今、どうなっているのでしょうか。

得ません。整備士・オペレーターの負荷はとも大きいですが、本当に頭張っていると思えます。そんな彼らを教えていますと、自分自身、ワクワクして来るんです。飯田さんは穏やかな表情で語っています。名譽も金もいらぬ人間ほど始末に困る者はいない。しかし、そのような人間でなければ大きなことは出来ないといった趣旨のことを述べていた西郷南洲。

そんな人間の確かな存在が、目の前の飯田 進さんにも重なって来ます。恐るべし76歳。
北原 巖男（きたはらい わお） 元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現日本東ティモール協会会長。（公社）隊友会理事